

吉備国際大学研究紀要
 (人文・社会科学系)
 第22号, 83-93, 2012

小学校社会科授業における「歴史資料」の活用とその意義 —実習志望の私立大学教職課程履修学生の 取り組みと課題を中心に—

田中 卓也*・松尾 美香**

**The significance and the Making use of the data on the historical phenomenon be well preserved collected reseach materials, museum, art museum, the remains of historical sites (and so on) for social studies lesson on Elementary school
 —focused on practices the subject theme for a trainee (student teacher) of a (course) registration of teacher-training course in a private university—**

Takuya TANAKA*, Mika MATSUO**

Key words : a person learning, a historical museum, a local histry learning,museum, a solution to problem systems classes, the drama of “TAIGA”, the boom of “REKIJO”

キーワード : 人物学習, 歴史資料館, 郷土 (の) 学習, 博物館, 問題解決型授業, 大河ドラマ, 「歴女」ブーム

【はじめに】

2008 (平成20) 年3月に改訂された『小学校学習指導要領』では, 小学校6年生の授業で教えることになっている「歴史」について, 他分野と同じく教育・指導内容に変更があったことは人々の知るところである。小学校における歴史学習の目標は「国家社会の発展に大きな働きをした先人の業績や文化遺産

について, 興味・関心と理解を深めるようにする」, また「歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し人々の願いを実現していったことを調べたり, 調べたことをまとめたりしながら, 人物の働きを共感的に理解できるようにすること」と明記されている。

現在の小学校児童において, 上記のような目標がいずれの児童においても完全に達成されているとは残念ながら言い難い。むしろこれまでの詰め込み(暗

* 吉備国際大学心理学部子ども発達教育学科
 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8

*Department of Child development, education School of psychology, KIBI International University
 8, Iga-machi Takahashi, Okayama, Japan (716-8508)*

** 岡山理科大学工学部

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

*Department of Engineering Okayama University of Science
 1-1, Ridaicho, Kitaku, Okayama, Japan (700-0005)*

記) 学習を否定し、新たに児童自らが「思考力」「判断力」「表現力」を身につけることのできる社会科の授業が求められているのであり、歴史の学習においても一応にそれがいえるのである。

小原友行は、人物中心の学習の課題について、社会科としての歴史学習の課題、さらには社会科教育学研究の課題としてとらえることで、小学校における歴史学習においても、興味や関心、さらには学習意欲を高めるだけでなく、児童の意思決定力を育成する学習、社会科としての人物学習が可能であり、期待されるものであると述べている。すなわち歴史上の人物による問題解決を児童に体験させることで、現代社会においていかに生きるべきかといった問題に直面させて行う「問題解決型」の学習を通して、自らが「記述」し、「説明」し、「判断」できる「研究」型の人物学習を重視しなければならないと指摘している。

また小学校中学年になると、「郷土」について学ぶことがある。現在では「郷土」という言葉は使用せず、「身近な地域」「地域」「地域社会」という別の言葉に置き換えられているといえよう。地域の学習が社会科学習のための方法としての位置づけをもつようになってきたものと考えられる。そして郷土の学習において「人の生き方」を歴史的に理解するときに先述した「人物学習」が有効となる。

しかしながら人物学習は歴史的な学習のなかで、人物を通して社会を学習することの困難な面も存在する。身近さをもって学ぶことが難しく、結論としては児童が主体的に学びづらくなるのである。児童のリアリティの認識の度合いによって理解が異なるといえよう。そこで求められるのは「歴史資料」の存在である。第6学年「目標」においても「(3)社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べ

たことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と記されているし、「2 内容」(1)でも、「わが国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにする」ことが求められていることから、児童はもちろんのこと、彼等を指導する教師にもそのことが求められることは避けられない。

歴史学習における「資料」の重要性については、すでに多くの先行研究の蓄積が存在する。北俊夫「小学校の『資料活用能力』の実態に関する研究」(『岐阜大学教育学部研究部門 教育実践研究』第7集, 2006年)や今渕哲哉「小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する研究—コンピュータ教材の開発・活用を通して」(『岩手県教育研究発表会資料』2006年)、によって歴史資料を活用した社会科教育の実態、指導方法についての考察はあるものの、教師とりわけ小学校教員を志望する学生(実習生)の取り組みや活動実態についてはあまりふれられていない感がある。

本論では、小学校社会科における「歴史資料」の活用とその意義について整理し、将来小学校現場で社会科授業をおこなうことになる私立大学に在籍する教職履修学生に焦点を当て、彼等の取り組みとその課題を明らかにしたいと考えている。

【1】歴史授業の資料・活用について

(1) 資料の活用とその目的

社会科の基礎・基本は理解(学習指導要領の内容)・能力(調査・観察力、資料活用能力、思考力、表現力など)・態度(その後の学習や生活の中で生かすことができる国や地域、社会的事象に対する愛情)の観点から培っていくが、その中の能力を構成する一つの要素が資料活用能力である。他の教科に比べて、社会科では資料活用能力の育成を目指した

学習活動が多いため、ここで改めてその中身について考えてみることにした。ここでは、資料活用能力を次の3つに分類している。①収集・選択(小学校), 収集・選択・活用(中学校) 何を知りたいのか, そのためにはどんな資料が必要なのかをはっきりさせて集める。また, 集めた資料をさらに学習問題に照らし合わせて選ぶ(中学校では, さらに選んだ資料を適切に活用する)。具体的には, 人に話を聞いたり, 地図や統計資料, 年表から見付けたり, インターネットのホームページから必要な情報を選んだりすることなどが考えられる。②分析・整理(小学校), 考察・整理(中学校) 収集した資料をノートなどにまとめ, それを基に何が読み取れるか考える(中学校では分析し, そこからより考えを深める)。具体的には, 2つの資料を比較して考えたり, 1つの事象から別の事象を関連付けて考えたり, 多面的・多角的に考えを深めたりすることなどが考えられる。また観察・表現(小学校), 技能・表現(中学校) 分析・整理または考察・整理した内容(過程)を文章や絵や新聞などで他に表す(中学校では, 表現したものを効果的に使いながら発表し合い, さらに高める)。具体的には, 文章に的確な絵地図や表, グラフ, 年表, 統計資料などを取り込んで効果的に表したり, ホームページやEメールを作ったりして外部へ発信したりすることなどが考えられる。この分類した中から, 主題にある「考える力」を深めるためには, ①と②の過程がとても大切になってくる。もちろん学習過程は多岐に渡るため, 様々な場面で「考える力」には繋がっていきだろが, より「考える力」に結び付く効果的な方法として, 次の2点に留意した。

学習過程の前半で行った資料収集(特に聞き取り調査など, 児童生徒自身の足で行った生きた資料の獲得)が, 後半に設定した話し合いなどの考えを深める活動にどのように生かされていたのかに留意する。資料が収集しやすい戦後史の单元の中で, 小学校・中学校同じような内容の单元を取り上げ, 聞き

取り調査から児童生徒の「考える力」がどのように深まってくるのか。特に中学校では, 社会的事象に対しての多面的・多角的なものの方や考え方が育つのではないか。

なぜ, 小学校6年における社会の歴史授業で資料を使用しなければならないのか。先行研究である「小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する研究-資料提示と発問の工夫をとおして-」(平成17年度第49回岩手県教育研究発表資料)に依拠しながら, 少し論じたい。

自分の考えをもつ力を育てる場における授業実践の分析として自分の考えをもつ力を育てるために, 資料提示と発問を行った。ここでは, 第2時の授業実践の様子から分析する。資料提示としては, 大名行列の特徴である「長い行列」, 「武士がもっていた物」, 「武士の衣装」, 「周りの人々の様子」が表れた場面を提示した。資料を提示すると, 児童は何が描かれているのか興味をもち, 長い行列が続いていることに驚いた。そこで, 児童が大名行列の絵をとおして江戸時代により関心を示し, 気付いたことや興味をもったことを述べられるように「この絵から分かることは何か。」と児童に発問した。児童は, 武士や周りの人々に注目し, その様子について資料から読み取りを行った。次に, 大名行列の絵からでは分からない「いつ」, 「どこで」, 「誰が」, 「何をしているか」を書いた文章を提示した。この資料では「どこの藩の行列ですか。」と問い, 金沢藩の大名であることを確認した。そして, 参勤交代にかかった日数が書いてある地図を提示し, 石川県を確認してから, 「どこに向かっていますか。」「何人で向かっていますか。」と発問した。児童は, 地図を見ることにより, 視覚的に距離的な遠さや, 2,000人もの武士が行列した様子をイメージできたのではないかと考えられる。児童は, このような学習活動をとおして, 歴史学習への興味・関心をもつとともに, 歴史的事象に対する問題意識を高め, 学習問題に対して

自分の考えをもつための視点を育むことができたと考えられる。しかし、学習問題に対する記述内容を見ると、5%の児童が自分の考えをもてたとはいえない記述をしていた。第2時では、「大名の領地の場所の様子を見たかったから」とか「江戸の様子などが知りたかったから」という記述であり、児童が学習問題の意味を取り違えたためと学習問題に対する予想の記述では、つぎのようになっている。

■武士はどのようにして力をもつようになったのだろうか

- 戦いをして力をつけた
- 貴族をたおして
- 毎日練習にはげんだ

■授業実践中家光はどうして参勤交代をさせたのだろうか

- 家光は、自分が一番えらいということを大名に言うために江戸に呼んだと思う
- 大名の妻と子を人質にとり江戸に呼び、幕府の勤めをさせるため
- 兵を集めたかったから大名の妻や子を江戸に住まわせるため、武器を集めるためと考えられる。今後の留意点として、歴史的事象の事実を確実にとらえさせることと、児童の問題意識と学習問題にずれが生じないようにすることがあげられる。以上のことから、提示した資料や発問は、より一層の吟味は必要であるが、自分の考えをもつために効果があったのではないかと考えられる。

(2) 自分の考えを広げる力の育成

自分の考えを広げる力の分析結果

事前・事後テストでは、検地の様子を表した資料の中で、児童が着目した人物の増減と、記述の状況から、「自分の考えを広げる力」の育成状況をとらえた。これは、事象の多面性に気付いたり、考えたりするための視点の有無を判断するためである。これは事前・事後テストでの具体的な記述の一例であ

る。事前テストでは、検地をしている人か農民のどちらかの立場が中心であり、どんな思いかを表面的、感覚的にとらえて記述している。事後テストでは、両方の立場から様々な視点で考えて記述していることが分かる。これらの結果から、検地という歴史的事象とかかわる多くの人の存在に目を向けられるようになり、事象の多面性に気付いたり、考えたりすることができるようになったと考えられる。

広げる力を育てるために、手だての試案に基づき、第2時では、大名の立場から参勤交代について考えた。追究する視点を明確とし追究意欲を継続させようと、大名行列の絵に注目させ、大名が乗っている駕籠を拡大した絵を提示した。そして、駕籠から大名が降りるように大名の絵を提示した。それから、「大名はどんな思いで参勤交代をしているのだろうか。」と児童に発問し、大名の思いを吹き出しに書かせた。「私の妻や子どもを人質として江戸に住まわせることは反対だ。」「参勤交代は大変だし、お金もかかるけど、もし江戸に行かなければ妻や子が殺されてしまうかもしれない。」という児童の記述がみられ、参勤交代の事実に着目しながら考えていることが分かった。それから、大名行列の大変さを費用の面から考えるために、金沢藩の予算の円グラフを提示した。児童が、参勤交代にかかる費用の割合に注目するように、グラフの項目にマスキングして提示した。児童は、参勤交代がいかに大名にとって負担が大きいか考えることができた。

児童は、このような学習活動をとおして、追究する視点や立場を変えて事象の意味について考えたり、人物の気持ちを考えたりすることができたと考えられる。そして、児童は、事象の多面性に気付くための事象の見方を学び、事象の見方を広げることができたと考えられる。以上のことから、歴史的事象の多面性に気付かせる資料提示と発問は、自分の考えを広めるために効果があったのではないかと考えられる。

(3) 自分の考えを深める力の育成状況

自分の考えを深める力を育てるために、手だての試案に基づき、第2時では、参勤交代に対する見方や考え方を交流した。家光と大名の立場から参勤交代について考えてきたことや、参勤交代に対する自分の考えを交流させるために、「参勤交代について賛成ですか。反対ですか。」と発問した。この発問によって、児童は参勤交代に対する自分の立場を明確にできた。賛成に挙手した児童は2～3名で、残りの全員が反対に挙手した。次に、「賛成の理由は」の問いに、「参勤交代をすれば、戦いがなくて平和になると思う。」という意見が出された。これに対して、反対意見として、「妻や子を人質にされているし、大名に負担がかかる。」「参勤交代で確かに戦いはないけど、支配されて生活するのは平和とは言えない。」ということが出された。これらの理由が児童から発表されたのは、参勤交代について幕府の立場とともに、大名の立場からも考えてきたためである。それから、「もし、参勤交代を行わなければ、大名はこの費用を何に使っただろうか。」と発問し、参勤交代について考える視点を与えた。児童は、大名の行動を予想し参勤交代が果たした役割について考えることができた。

児童は、このような学習活動をとおして、歴史的事象の見方や考え方を学び、自分の考えを深めることができたと考えられる。児童は、問題追究の視点や立場を変えて考えることにより、歴史的事象の多面性に気付き、その気付きを交流することで自分の考えを根拠のあるものにできた。以上のことから、見方や考え方を交流させる発問は、自分の考えを深めるために効果があったと考えられる。

(4) 資料活用を目的とした授業の実施

「教材研究の視点・資料の活用」(<http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/kyouka/chireki-tebiki/>

[pdf/kyouzaikenkyu.pdf#search](http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/kyouka/chireki-tebiki/pdf/kyouzaikenkyu.pdf#search)) によれば、写真、図、表、グラフ、地図、史料などの資料の提示の仕方を工夫することが大切となるのである。

① 写真・グラフを身近なものに表現

一般に文化財の写真ではその大きさが想像しにくいものがある。例えば「鑑真和上像」(唐招提寺)の像高は80.1cmである。「腰の高さぐらいだな」と児童が発言すれば「意外に小さい」との実感を与えることになる。またデータを生かすためにも身近なものサイズ(たとえば教室、校舎、グラウンド、体育館のサイズ等)を調べておくといよいであろう。そうすることで「大仏と校舎とどちらが大きいか?」といった発問が可能となる。さらにグラフについても、例えば、「幕末の大坂における物価指数」のグラフを見せ、「このグラフの米の値上がりは、今でいうと120円のジュースが8年後に1,200円になることを示している」と説明すると、生活感覚に訴えることが可能になる。

② 資料における実証

教科書は、おもに歴史的資料に基づいて記述されているが、全ての資料が示されているわけではないといわれる。歴史を実証的に見る態度を育成するために、資料や原典を提示するものよいであろう。例えば、教科書では高野長英の『戊戌夢物語』について、「幕府の鎖国政策を批判する内容であったため、高野長英が処罰されることとなった」と記述されている。『戊戌夢物語』の現代語訳を児童に提示することで強い印象を与えることができると思われる。

③ 風刺画で議論を展開

近代以降の風刺画・政治マンガには面白いものが多く、生徒の資料集にも採用されている。これらについては授業の場面で教師が内容を説明するよりも生徒に何が描かれているのか説明させたり、議論さ

せる方が良いということになる。

④数字で対比

歴史的に関連性の無い数字を対比することにより思わぬ効果を生むことがある。例えば、「関ヶ原の戦い」の東西両軍の総動員兵力が約15万人とされている。同じく「島原の乱」(天草・島原一揆)の一揆軍,幕府軍の総動員兵力が約15万人とされており,この数字を比較することで「島原の乱」の江戸幕府に与えた影響の大きさが図り知ることができるのである。

⑤地図の統合

2枚の地図資料を統合することで思わぬ効果を生むことがある。例えば日清戦争の主戦場図・日本軍の進路と日露戦争のそれとを同じ地図に統合させることで日本の大陸進出が視覚的に理解させることができるのである。また,江戸幕府の初期の頃の全国各地における大名配置図と江戸を起点として整備された「五街道」を同じ地図上で統合させるようにすることで,江戸幕府における意図が,視覚的に児童等に理解させることができるとされている。

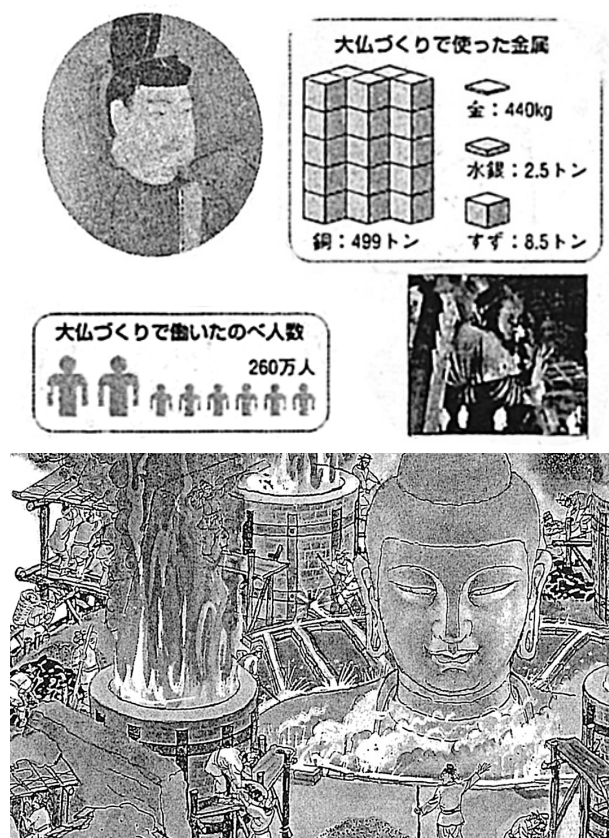
【2】教員志望学生における「資料」の認識 —「子どもの社会」の講義を通して—

では,現在私立大学の教職課程を履修している小学校教員希望の学生らは,「歴史資料」をどのように扱い,理解しながら授業を計画しようとしているのか。少しく執筆者が講義担当する「子どもの社会」の講義時における履修学生の様子をうかがってみることにする。

(1) 「2 聖武天皇と奈良の大仏」〈大仏をつくる〉 東京書籍編『新編 新しい社会6上』22～25頁) に関する掲載資料から学ぶ

①受講学生の様子

2011(平成23)年11月9日(木)の「子どもの社会」の講義において,「大仏をつくる」についての項目をとりあげ,そこに掲載された写真,絵などを眺めさせ,これらを活用して,どのように授業をおこなうのかについて検討させた。



【学生に提示した絵・写真】

受講学生等は,いかにも初めてそれを見たかのような姿であった。また資料・図が一体何を表現したものであるのかについても一様に疑問を隠せずにいた。「聖武天皇」,「大仏」のようにこの資料でポイントとなる用語の理解も不十分であり,その説明から行わないと,まったく理解できていない様子であった。なお授業担当の執筆者のほうから,ヒントや説明を重ねて与えることによって,何となくかつて小,中学生時代に学習したときの記憶をようやく思い起こしたようにも感じた。

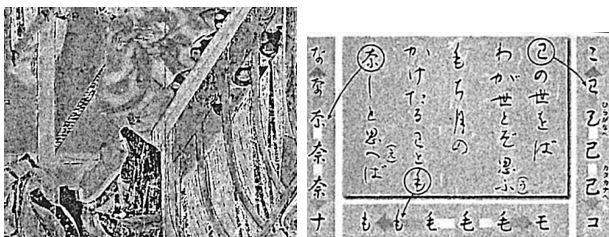
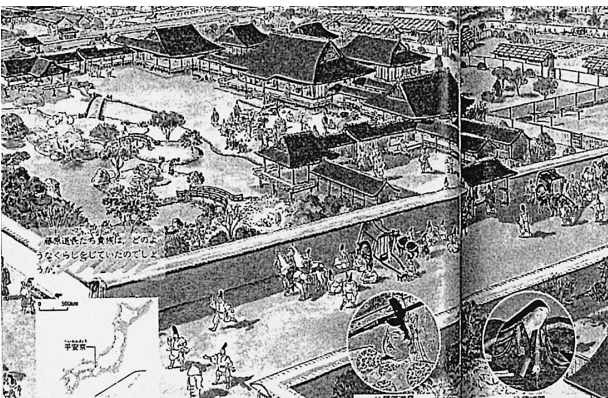
②彼等の取り組みと課題

さきほど紹介した絵・写真などの資料をみながら、授業計画を考案していくものの、なかなか実感がわかないのであろうか、判然としないまま作業を続ける学生が多かったのが事実である。模擬授業はまだ行っていないが、模擬授業前にはしっかり彼等に学習させておかないと、授業が成立しない恐れがあるようにも感じられた。

(2) <貴族のくらし>・<日本風の文化がうまれる>
東京書籍編『新編 新しい社会6上』34～35頁)
に関する掲載資料から学ぶ

①受講学生の様子

同日の講義において、平安時代の「貴族のくらし」に関する絵・写真などを眺めさせ、これらを活用して、どのような授業を展開させるのかについて検討させた。どこか見たことのある学生が多かったのか。関心度が高い様子にうかがうことができた。



【学生に提示した絵・写真】

平安貴族のすまいであった「寝殿造」の住宅様式について、「見たことはあるが、なぜこのような邸宅がつくられたのか」とか庭園のなかに池があってどんな遊びをしたのか」という質問を学生に投げか

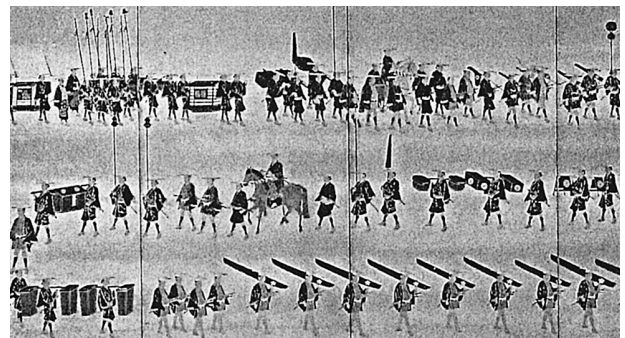
けたが、ほとんど反応はない状態であった。しかしながら平安時代に「蹴鞠（けまり）」が貴族の間において流行していたことについてふれると、「サッカー」に関心のある学生が多く、その話を集中して聞くようになった。

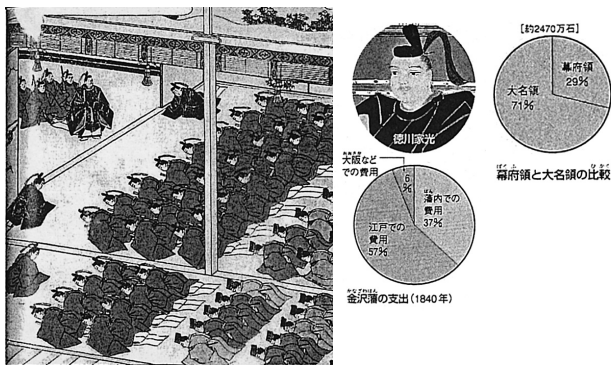
またこの頃の女流作家であった紫式部(著書に「源氏物語」)、「摂関政治」の最盛期に政治を行った藤原道長については、すでに知っていた学生も多く、理解・関心を示した。また「ひらがな」の流行についても同じく関心を示していた。資料・絵から授業をいかに行うのかについては、困難な状況に変わりはない。

(3) 「5 徳川家光と江戸幕府」<大名行列を調べてみよう・家光が大名をしたがえる・人々のくらしと身分> (同上, 60～66頁)に関する掲載資料から学ぶ

①受講学生の様子

翌週の11月16日の講義において以下の資料を提示し、どのような授業を行うのかについて検討させた。現在NHKの総合テレビジョンで放映されている大河ドラマ「江-女たちの戦国」を視聴していることと関係していたのか。江戸幕府3代将軍がほかならぬ「徳川家光」であったこと、江戸時代になって大名の大幅な配置換え(親藩・譜代・外様の大名の分類)が行われたこと(とりわけ1600年に起こった「関ヶ原の戦い」以後)など関心が強かった。また歴史に関心を示し、歴史に関する図書や史跡を訪れる女性、すなわち「歴女」に関するブームである





【学生に提示した絵・写真】

こともよく知っている様子であった。やはりマス＝メディアの影響は大きいようである。

「大名行列」(参勤交代制度)をなぜ江戸幕府は各大名に行かせたのか?という点についても検討させようとしたが、大名行列への関心には示すはするが、なぜこのような行動をとらなければならなかったのか、武士の気持ちはどうだったのか?については、あまり関心を示そうとはしなかった。

「将軍の力を全国の大名に見せしめ、大名行列をさせることで、資金を浪費させ、幕府に対して反抗する力をそぎ落とすことをねらった。また1年ごとに大名の妻や子は江戸に滞在した(人質となっていた)」と解答めいたヒントを執筆者が学生に出した際には、「ああ、そういうことか」と気付いたり、納得しうなずく学生も少なからず散見された。

②彼等の取り組みと課題

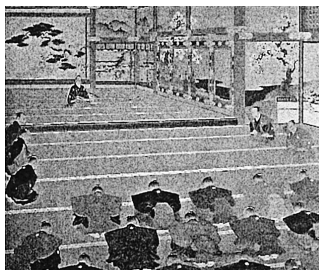
授業計画を考案していくものの、なかなか実感がわかないときは異なり、模擬授業の計画を立案する行動が目についた。また「将軍」と「大名」さらに「武士」との違いについて授業担当者に聞く者や、大名の配置換えの特徴(親藩・譜代大名は江戸から近い場所に、外様大名は江戸から遠方に配置)などにも関心を示し、よく耳にする大名家の「前田(家)」、「毛利(家)」、「島津(家)」、「伊達(家)」の領地についても現在の地域について持参していた「地図(帳)」で確認したりする者も見られた。また確認作

業後、納得する者も存在するようになった。さきほどと比べ、少し模擬授業に期待できると感じられるようになったのが正直な印象であった。

(4) 「7 明治維新をつくりあげた人々」<若い武士が幕府をたおす>(同上, 82～83頁)に関する掲載資料から学ぶ

①受講学生の様子

同日の講義内で以下の資料を提示し、どのような授業を行うのかについて学生に検討させた。さきほどの江戸幕府の箇所と同じく昨年の「大河ドラマ」で放映された「龍馬伝」をよく視聴していたことと関係している。現在も俳優歌手として活躍中の福山雅治が演じた「坂本龍馬」のインパクトが予想以上に大きかったようで、土佐藩(現在の高知県)出身の龍馬のほか、「薩摩藩」(現在の鹿児島県)出身の西郷隆盛、大久保利通、「長州藩」(現在の山口県)吉田松陰、高杉晋作、木戸孝允、同じく人気であった「新撰組」(京都見廻組)のメンバーであった近



【学生に提示した絵・写真】

藤勇，土方歳三，沖田総司など幕末の志士の名前が次々と学生の口から登場していたのは舌を巻くことになった。さきほどと同じくマス＝メディアの影響は大きさを物語る光景となった。

②彼等の取り組みと課題

幕末の志士らが命をかけて、「官軍」（のちの明治新政府軍）と戦ったのかについては、学生の興味・関心の強さから説明はほとんどしていない。学生等は、「新しい国づくりに命をかけた勇者」と彼等志士を称え、尊敬の念さえうかがえた。学生らも尊敬するところが大いに感じられたのであろう。模擬授業においては、代表的人物をとりがえた授業の展開を考えた者が大変多く、発問のしかたや板書についてもユニークなものを取り入れようとする姿を感じた。

小学校における実習希望の学生に、歴史資料（絵・写真）を用いた授業の計画は、知識習得以前に関心の大きさによって授業計画が異なることがうかがえた。とりわけ歴史の授業を行わせるには、実習希望学生らも関心を示すようなものでなければならず、関心を示せない状況になればなるほど、資料の活用・読解はもとより、歴史の授業が不成立してしまう危険性をはらんでいることに2回の講義を通じて気付かされることになった。

歴史資料の活用と歴史への関心は実習学生には大変重要なことであり、彼等が実習に出るまでに、相当の時間、練習・訓練を積む必要があることを一指導教員として感じさせられることになった。

【3】歴史（博物館）・資料館の活用の重要性

小学校6年生の社会の歴史授業では、歴史資料館、博物館を代表とする施設の活用も求められる。この手に関する先行研究は大変多く、蓄積も歴大である。なおここでは、渋谷区立猿樂小学校の伊東大介教諭による「小学校教育における博物館を活用した指導

の在り方－歴史学習・地域学習を例として－』『教職大学院派遣研修研究報告』を依拠しながら、以下に資料活用の重要性についてふれていきたい。

そもそも小学校教育における博物館活用の意義とは、「生涯学習」「体験的な学習」の2つを満足させるものの一つに博物館の活用が考えられる。博物館は、学校教育を修了しても、各自の興味・関心に応じて利用できる施設であることから、まさに生涯学習の「拠点」と考えてもよい。そして、博物館で行われる「見学・観察・実験」などの活動は、どれも「体験的な学習」としてとらえられる。「体験的な学習」は「生きる力」を育成するための重要な要素の1つであり、「生涯学習の基礎」としての博物館の活用は、人生の早い段階、発達も考慮すれば、まさに小学校段階での取り組みがより一層効果的である。ここに博物館活用の基本的な意義を見い出すことができる。博物館を学習に活用することで、歴史・文化に関する具体的な事物に接し、知的好奇心の高まり、学習への動機付け、学習の深化が図られることになる。それらは、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲・態度・能力を高めていくことになり、博物館活用の高い水準での意義が存在すると考えることができる。子どもたちにとって、博物館は、生活・文化を見つめ直し、創造していく生涯にわたる学びの場となるものである。

また寺本潔・田山修三『近代の歴史遺産を活かした小学校社会科授業』（明治図書、2006年）では、“明るい近代”を教える題材の一つに歴史遺産と呼ばれるモノがある。建築や土木、交通、産業などに関するこれらの遺産は、各地域に存在し、魅力にあふれている。これらの歴史遺産を活用した魅力あふれる授業づくりについてまとめられているし、執筆者および共同研究者が活動している岡山県内にも多くの資料館が存在している。たとえば、「岡山県立記録資料館」（岡山市北区南方2丁目1-3-1）、「岡山市デジタルミュージアム」（岡山市北区駅元町15-1）

「津山洋学資料館」（岡山県津山市西新町5）、「犬養木堂記念館」（岡山市北区川入102-1）、「高梁市郷土資料館」（高梁市向町21）など挙げられる。「高梁市郷土資料館」には、毎年小学校教員をめざす学生を対象に「子どもの社会」の授業の一環として、見学をさせている。同館は1904（明治37）年創立の「旧高梁尋常高等小学校本館」（木造2階立て）であり、市の重要文化財に指定された建物である。江戸時代から昭和初期にかけての生活用具が3,000点ほど展示されていて、高梁の町の移り変わり、当時の人々の暮らしを偲びながら、現在でも学習できる恰好の歴史資料の1つである。

いずれにせよ、歴史（博物館）・資料館の活用は重要なものであり、「社会科」の授業において、歴史資料を十分に活用することが必至である小学校教員養成をおこなう上でも外せない方策である。

【おわりに—「歴史資料」の活用とその意義と教員志望学生の課題—】

本論では、小学校社会科の授業における「歴史資

料」活用について、その実態および意義について明らかにしてきた。小学校社会科の授業では基礎・基本は理解や能力、態度の観点から培っていくが、その中の能力を構成する一つの要素が資料活用能力である。資料活用能力を身につけなければならない小学生を将来学校現場で教えることになる小学校教育実習希望学生らは、資料活用能力を身に付けていなければならないはずだが、そうでない学生が多いことが社会の講義を通してわかった。教科書に掲載された絵・資料の読解はもとより、それがもたらす意味などの理解不足の状況にある希望学生が多いことから目をそらすことができない。『大河ドラマ』を視聴したり、また“歴女ブーム”に関心を示すように、歴史そのものから関心を示すように学生を育てていかないと、小学校教員として不適格な学生を大量に養成してしまうことにもなりかねない。今一度、歴史資料の重要性を認識し、しっかり歴史資料を吟味、理解したうえで、資料を十分に活用できる授業を展開するようなことがこれからの小学校教員に望まれるものとなるであろう。

【引用文献・参考文献】

- ①古川清行『歴史学習の資料とその活用—原始・大和—（小学校社会科学習指導の研究）』東洋館出版社、1987年。
- ②小原友行「意思決定力を育成する歴史的授業構成—『人物学習』改善の視点を中心に—」広島史学研究会『史学研究』第177号、1987年。
- ③小原友行「人物をとりいれた歴史学習」『現代社会科教育実践講座第10巻 日本の歴史の学習②歴史的内容の授業Ⅱ』研秀出版、1991年。
- ④小原友行『小学校新社会科授業の基本用語事典』明治図書、1999年。
- ⑤河野富男「小学校歴史学習における歴史的思考力育成の論理—絵画資料を活用した授業開発を通して—」鳴門社会科教育学会『社会認識教育学研究』第19号、2004年。
- ⑥北俊夫「『小学校社会科の資料活用能力』の実態に関する研究」『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践部門』（第7集、2006年）。
- ⑦文部科学省『小学校学習指導要領』2008年。
- ⑧文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社、2008年。
- ⑨北俊夫編『新社会科／活用力をつける“新教材”の研究授業のつくり方・見方』明治図書、2010年。

⑩全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書，2011年.

⑪「高梁市ホームページ」『郷土資料館』（<http://www.city.takahashi.okayama.jp/view.rbz?of=1&ik=0&pn=14&cd=572>）